

2012年4月号

古河総合公園だより

発行日/2012年4月11日

発行者/(財)古河市地域振興公社 住所/〒306-0041 古河市鴻巣 399-1 古河総合公園管理棟

ホームページ/http://www.koga-kousya.or.jp/koga-park/index.html



一年のお休みを経て 復活! 「ふるさと古河新茶まつり」 5月13日(日)10時~15時 ※雨天決行



～ プログラム ～

- ・お茶つみ体験 (50円)
- ・野点茶会 (300円)
- ・茶もみ実演
- ・新茶、農産物などの販売コーナーetc

※内容は予告なく変更になる場合がございます。

問合: 古河総合公園管理事務所 0280-47-1129

主催: 財団法人古河市地域振興公社

共催: 古河茶専門店会、古河市茶道連盟、煎茶道東阿部流茨城支部、株式会社雪華、古河市観光協会

古河と猿島茶 (「わがまち古河 市制施行55周年記念誌」より抜粋)

茶業は古河の地場産業のひとつであり、古河は古くから猿島茶の集散地だ。猿島茶は古河を含めた猿島地方の特産品だ。

中山元成(1818~92)は、京都・宇治から技術者を招いて猿島茶を改良し、良質の煎茶づくりに成功。横浜港からも輸出されるようになり、古河では茶の栽培、製造業者が増加した。そのため、明治二十年代には、古河は製茶産額、茶畑面積とも県内一になった。古河では、いまでも古いのれんを保っている店がある。

茶業が盛んな頃、農家は茶摘みから手もみまで行っていた。問屋組織が発達していたため、行商はなかった。第二次世界大戦中は、増産のために二番茶ばかりでなく三番茶、さらに、冬には、ほうきで雪を払って摘んだ秋冬番茶なども出回ったという。

戦後、茶の生産は衰退。古河の茶問屋は生産地問屋から消費問屋へ移行した。産地問屋だったので古河の問屋は、かつて製茶の機械を所有していて、相場によっては半製品のアラ茶を仕入れて自ら製茶もした。

現在、古河茶専門店会に加入している店舗数は十一。会に入っていない店を含め市内には、二十店ほどのお茶屋がある。茶畑を持っている店もあれば、小売専門の店もある。

◆ 古河総合公園 花ファイル NO.133 ◆

● アカメガシワ ●

[科名] トウダイグサ科、落葉高木

[樹高] 5~10m 程

[花] 花序を出して小さな花を多数付ける

[花期] 7月

新芽が赤いこと、また、昔は、柏と同じ様にこの葉を食物をのせるのに使ったことからこの名前が付いた。園内では、日当たりの良い林の縁などに自生する。成長がとても早く、草刈りの難を逃れた個体は、数年で人の背丈を超える。





3月29日(土)

花桃「矢口」3週間遅れで、ようやく開花



その後、例年より2週間ほど遅れて、4月中旬頃に満開を迎えました。

～ まだまだ楽しめる花桃 ～

これからが本番の遅咲きの品種をご紹介します！



【源平 (げんぺい)】

ひとつの木に紅と白の花を付けます。

例年4月初旬に最盛期を迎えますが、今年は10日にやっと開花。見頃はこれから。

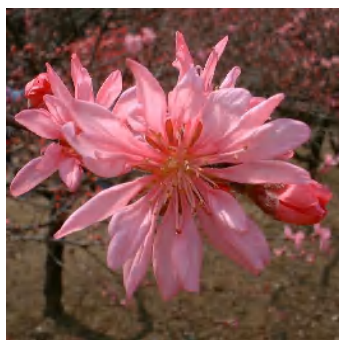
パークフロント駐車場の北側に列植されています。

【菊桃 (きくもも)】

燃えるような紅と細い花弁が特徴です。

例年4月下旬に最盛期を迎えます。今年は・・・？

古民家園の入口付近と桃林の北側(一番奥)で見ることができます。



見てみたいでしょ？ フランコの木の花



みなさんご存じのフランコの木です。エノキ(ニレ科、落葉高木)にフジ(マメ科、つる性木)がからんで、不思議な姿をかもししています。



フジなので、これからの時期、もちろん花が咲きます。しかも、エノキとフジが渾然一体となって、これまた不思議な花木が出現します。ちなみに昨年は5月初旬が最盛期でした。

藤棚とはひと味違う、野性味あふれるフジをお楽しみください。旬の時期はわずか！お見逃さないように。



古河総合公園ごよみ 2012年5月

太字斜体: 今年の予定

() は過去の記録より



: 開花 : 見頃

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5 スレン(2011)
6	7 フジ(2010)	8	9	10 アヤマ(2011)	11	12 もりもりクラブ「野草園管理」
13 ふるさと古河新茶まつり	14 ペニハトチキ(2010)	15	16 アカシア(2011)	17	18	19
20	21	22	23	24	25 ユリキ(2010)	26 もりもりクラブ「クス除草」
27 どろんこクラブ「田おこし」	28	29	30	31		